

# 珠洲焼

## 歴史

平安時代半ばから室町時代にかけて、能登半島の先端に位置する今の珠洲市から能登町(旧・内浦町)にかけて生産された。窯跡は、外浦側にある馬縹[まつなぎ]支群をはじめ、約30基の古窯が確認されている。これらの窯は、古墳時代中期の5世紀に大陸の陶工が伝えた須恵器[すえぎ]の系統を受け継いでおり、須恵器が衰退した後も中世日本海文化を代表する焼き物の一つであった。

窯が半島先端部に築かれた関係上、珠洲焼は海運により日本海沿岸の東北、北陸の各地や遠く北海道まで運ばれていました。しかし、16世紀後半以降、珠洲焼は姿を消し、近年、珠洲市や地元有志の尽力により再興され、今日に至っている。

## 特色

珠洲焼の特色は、須恵器の系統を継ぐ、粘土紐を巻き上げ、叩[たた]きしめて成形を行い、「還元焰燻べ焼き」で焼き上げる点にある。無釉高温のために、灰が自然釉の役割を果たすことが多く、幽玄ともいえる灰黒色の落ち着いた美しさを醸し出す。器の表には成形のときに生じる右下がりやの叩き目をはじめ、綾杉文[あやすぎもん]、変化に富んだ櫛目[くしめ]波状文、各種の刻文や刻印などが施されている。

甕[かめ]や、壺、摺鉢[すりばち]などの日用品が多く焼かれたが、中には花入れなど装飾的なものも作品として残っている。



# 珠洲焼陶瓷



## 历史和特色

从平安时代中期到室町时代，位于能登半岛尖端的现在的珠洲市到能登町一带(旧称内浦町)，开始生产珠洲烧陶瓷。现在已确认到有约30座古窑的窑迹。珠洲烧陶瓷是代表中世纪日本海文化的陶瓷器之一。

因为窑址是建在半岛的顶端，通过海运珠洲烧陶瓷被输送到日本海沿岸的东北、北陆各地，以及遥远的北海道。但是，16世纪后期以后，珠洲烧陶瓷逐渐销声匿迹。近年来，在珠洲市及地方有志之士的大力协助下，得到重建并一直延续到今天。

珠洲烧陶瓷的特色是继承了须惠器的制法，将粘土纽卷起，敲紧成型，之后运用“还原烟熏烧”的方法烧制而成。因为是无釉高温烧制，燃灰在很大程度上起到了自然釉的作用，表面形成灰黑色，呈现出一种幽邃情趣的安宁美。

## 情報 资讯

主な生産地(主要产地)	珠洲市(珠洲市)
主な製品名(主要产品名)	花器・茶器・酒器(插花用器皿, 茶具, 酒器)
主な生産者(主要生产者)	珠洲焼創炎会(珠洲烧创炎会) 〒927-1204 珠洲市蛸島町1部2-480 珠洲焼館内(珠洲市蛸島町1部2-480 珠洲烧馆内) TEL (0768) 82-5073